

「結婚の誓い。」

I コリント 7 章 32～39 節

結婚は、地上の生活においてあるものであつて、「復活の時には人は娶ることも嫁ぐこともなく、天の御使いたちのようです。」(マタイ 22・38 と、天国では男女の区別がなくなるようです。天国では永遠に生きるのです、生殖の必要はなくなるのです。「血肉のからだは神の国を相続できません。」I コリント 15・50)、「終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちに変えられます。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによりみがえり、私たちは変えられるのです。」(同 52)。

地上の人生では、男女の違いは顕著です。肉体的には男は頑健で逃走的です。女は生存力も生活力も男よりも強く、男は女なしには生きられないでしょうが、女は男なしでも生きていけるでしょう。

「男が女のために造られたのではなく、男の為に造られたからです。」(I コリント 11・9)、と差別的、優性的に男がありますが、「主にあっては、女は男なしにあるものではなく、男も女なしにあるものではありません。すべては神から出ています。」(同 11.12)。

「人(男)がひとりであるのは良くない。わたしは人のために、ふさわしい助け手を造ろう。」(創世記 2・18)。「神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。」(同 1・27)。その目的は、「生めよ。増えよ。地に満ちよ。血を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ。」(同 28)でした。

性欲は、子孫を増やすために神が備え付けたものですが、それだけでなく、男女が結婚しようとする願いを持つためであり、全く存在も質も能力も異なる男女が愛し合うためのものです。「結婚した男は、どうすれば妻に喜ばれるかと世のことに心を配り、心が分かれるのです。・・・結婚した女は、どうすれば夫に喜ばれるかと、世のことに心を配ります。」(I コリント 7・33-34)。

キリスト教では、結婚式に際して、「あなたは神の教えに従って、夫(妻)としての分を果たし、常に妻(夫)を愛し、敬い、慰め、助けて変わることなく、その健康の時も、病の時も、富める時も、貧しき時も、いのちの日の限りあなたの妻(夫)に対して堅く節操を守ることを約束しますか。」という誓いをしなければなりません。もし、この誓いを断るならば、司式者は式を中止します。さらに、「人は、神が結び合わせたものを引き離してはなりません。」(マタイ 19・6)と宣言します。

さらに、結婚した夫婦には次のような命令がなされます。「夫たちも、自分の妻を自分のからだのように愛さなければなりません。自分の妻を愛する人は自分自身を愛しているのです。」(エペソ 5・25)、「妻もまた、自分の夫を敬いなさい。」(同 33)。

「夫たちよ、妻が自分より弱い器であることを理解して妻とともに暮らしなさい。また、いのちの恵みとともに受け継ぐ者として尊敬しなさい。そうすれば、あなたがたの祈りは妨げられません。」(I ペテロ 3・7)。「妻たちよ、自分の夫に従いなさい。たとえ、みことばに従わない夫であつても、妻の無言のふるまいによつて神のものとされるためです。夫は、あなたがたの、神を恐れる純粋な生き方を目にするのです。あなたがたの飾りは、髪を編んだり金の飾りを付けたり、服を着飾ったりする外面的なものであつてはいけません。むしろ、柔和で穏やかな霊という朽ちることのないものを持つ、心の中の隠れた人を飾りとしなさい。それこそ、神の御前で価値あるものです。かつて、神に望みを置いた敬虔な女の人たちも、そのように自分を飾って、夫に従ったのです。」(同 12)。夫婦共に厳しい命令を受けています。

つまり、結婚するということは、かなり厳しい、守らなければならない条件があるのです。それを軽く見て、一目ぼれなどで結婚したとしても、守らなければ悲惨なことになります。結婚時の誓約は、神の定めた法則を文章化したものであり、クリスチャンであろうとなかろうと適用されると思います。簡単、安易に結婚をするものではありません。自分ができるとしても、相手が無頓着な人であれば、生涯苦勞することになります。しっかりと見定め、また確認しあつて結婚するべきです。

先週お話ししたように、夫婦の立場では、明らかに夫が差別的に優位です。しかし、天国では男女の区別がなくなるということは、男であつたとしても、女であつたとしても、それぞれに神が課した立場であるということになります。世の中では金持ちが有利ですが、天国に行くのはかなり不利です。同様に、信仰者は明らかに女性が多いのです。

夫婦でも為すべきことを怠り、果たさず、徳をしたと考える人がいるようです。そういう面で、世の男性の多くは、裁きを受けるのです。伴侶に都合の良い要求をしてはいけません。喜んで十字架を負う者に、この世でも報いは大きいのです。

1. 信仰に生きるキリストの弟子の養成

主の弟子は状況に左右されず聖霊に聞き従い、神を信じ人を信じて人々の救いと解放をもたらす。十字架に死んで神と共に生きるとは、自分と人々の罪からくる咎を覚悟し信仰と希望と愛とを持って福音の祝福の中に生きることである。キリストの弟子の養成こそ教会の使命である。

2. 真理と祈りと讃美に満ちた信仰生活の指導

聖書の教え、真理は人を自由にする。祈りは問題や悩みを解決し、神の御心を確認する。讃美は癒しと喜びと力を与える。教会はそれらを教え指導し、互いの交わりの中で模範を造り出していく。

3. キリストを頭として愛によって結び合わされた共同体の形成

教会には多種多様な人々が神によってこの世から召し出されてくる。この信者を整え、神への奉仕という使命を果たすように導くには、キリストの弟子として十字架を負い主に従う指導者層が確立されなければならない。整えられ愛し合い一致した教会こそ神の栄光が現され成長する。

4. 隣人に対する愛に基づいた執り成しと伝道の実践

神を愛する人は人をも愛し、行いを伴う信仰を持つ。真理を知らず罪と咎によって苦しんでいる人々を愛し、執り成し、福音を伝えることによってこそクリスチャンは成長し、祝福される。

5. 地域と社会に貢献する魅力的な教会員の歩みと家族形成

教会と教会員の活動・事業・啓発運動を展開し、社会に影響を与えながら、同時に愛し合う家族を形成し、接する人々に福音を現していくことが、日本のリバイバルに必要であると私たちは信じる。

今週の聖書

I コリント 7:32 あなたがたが思い煩わないように、と私は願います。独身の男は、どうすれば主に喜ばれるかと、主のことに心を配ります。

7:33 しかし、結婚した男は、どうすれば妻に喜ばれるかと世のことに心を配り、

7:34 心が分かれるのです。独身の女や未婚の女は、身も心も聖なるものになろうとして、主のことに心を配りますが、結婚した女は、どうすれば夫に喜ばれるかと、世のことに心を配ります。

7:35 私がこう言うのは、あなたがた自身の益のためです。あなたがたを束縛しようとしているではありません。むしろ、あなたがたが品位ある生活を送って、ひたすら主に奉仕できるようになるためです。

7:36 ある人が、自分の婚約者に対して品位を欠いたふるまいをしていると思ったら、また、その婚約者が婚期を過ぎようとしていて、結婚すべきだと思えば、望んでいとおりにしなさい。罪を犯すわけではありません。二人は結婚しなさい。

7:37 しかし、心のうちに固く決意し、強いられてではなく、自分の思いを制して、婚約者をそのままにしておこうと自分の心で決意するなら、それは立派なふるまいです。

7:38 ですから、婚約者と結婚する人は良いことをしており、結婚しない人はもっと良いことをしているのです。

7:39 妻は、夫が生きている間は夫に縛られています。しかし、夫が死んだら、自分が願う人と結婚する自由があります。ただし、主にある結婚に限ります。

哥林多前書 7

32 我希望你們一無掛慮。沒有結婚的男人所掛慮的是主的事，是要怎樣討主的喜悅；
33 而結了婚的男人所掛慮的是世界的事，是要怎樣討妻子的喜悅，

34 這樣他就分心了。未婚女子和童貞女子掛慮主的事，以致身體和心靈都得以聖潔；而結了婚的婦女掛慮世界的事，是要怎樣討丈夫的喜悅。

35 我說這話是為了你們自己的益處，不是要給你們套上牢籠，而是要你們行事合宜，毫無分心地殷勤服事主。

36 但如果有人認為他對待自己的童貞女兒不合宜，而且女兒也過了花期，事情又該如此行，就當按著自己所願的去做——他並不是犯罪，應當讓兩個人結婚。

37 但如果一個人自己心裡堅定不移，也不出於勉強，又對自己的意願有主權，並且自己心裡已經決定留下自己的童貞女兒，那麼他就做得好。

38 所以，那讓自己的童貞女兒結婚的，做得好；那沒有讓她結婚的，做得更好。

39 丈夫活著的時候，妻子是受約束的；丈夫如果死了，妻子就可以自由地嫁給她所願意的人，只是要嫁給主裡的人